

令和 2 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05770・19K20962

研究課題名（和文）継承日本語教師の協働に向けた調査研究：関係構築プロセスの理論的モデル構築

研究課題名（英文）A Study toward Construction of Cooperative Relationships among Teachers of Japanese as a Heritage Language

研究代表者

瀬尾 悠希子（Seo, Yukiko）

東京大学・大学院総合文化研究科・講師

研究者番号：40820676

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、継承日本語教育に携わる教師が他の教師や学校運営者と協働的な関係を構築するプロセスを、ヨーロッパ、北米、オセアニア、アジア地域の教師達へのインタビュー調査によって探った。その結果、継承語学校が抱える構造的な問題が教師達の関係構築を難しくしていることがわかった。一方、オンラインツールを活用することや、問題意識の共有、教師としての理想自己の共有がなされることで、協働的な関係が生まれていることが認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義は次の2点である。(1)継承語教師の協働的な関係構築には学校を取り巻く構造的な問題が影響しており、教師の努力のみに成否を委ねることの限界を明らかにした。(2)オンラインツールの活用などによって関係構築が成功するプロセスを明らかにした。これらは、世界各地の継承語教師の関係構築を促進する際に有用な観点や方法の提示をした点で社会的にも意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study investigated how teachers of Japanese as a heritage language constructed cooperative relationships with other teachers and school administrators, based on data obtained from in-depth interviews with teachers in Europe, North America, Oceania, and Asia. The results showed that structural challenges that heritage language schools have been facing cause difficulties for teachers to construct cooperative relationships. It was also found that utilization of online tools, teachers sharing awareness of the challenges they face, and teachers sharing ideal teacher selves promote close communication and relationships.

研究分野：日本語教育

キーワード：継承語教育 日本語教育 教師 関係構築

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

海外定住する日本人の増加に伴い、海外で育つ子ども達への継承語としての日本語教育の重要性が高まっている。日本語を継承語として学ぶ学習者を対象にした研究や、教授法や教材の開発を目指した研究は盛んに行われはじめているが、教師に焦点を置いた研究はまだ少ない。

本研究課題に取り組む前に研究代表者が行っていた研究では、継承日本語教師の十全なアイデンティティの構築と教育実践の主体的改善には、同僚や学校運営者と協働的關係が構築されているかどうかの影響していることがうかがえた。他言語における継承語教育研究でも、教師の協働的關係の不足が指摘されている (Ludanyi, Belluz & Rex 2017)。しかし、継承語教師の協働的關係がいかに構築できるかは十分に明らかにされていなかった。

2. 研究の目的

上述した背景を踏まえ、継承日本語教育を取り巻く政治的・制度的・社会的状況の影響を考慮しながら、継承日本語教育に携わる教師が同僚や学校運営者と協働的あるいは非協働的關係を構築していく過程を解明することを本研究の目的としていた。

3. 研究の方法

世界各地の継承日本語教育機関で働く教師 13 名に、1 回から 2 回の半構造化インタビューを行った。インタビューは調査協力者の同意を得て録音し、逐語的に文字起こしをしたトランスクリプトをデータとして分析を行った。

4. 研究成果

以下の 4 点に関して研究成果を得た。

- 教師と学校運営者の関係
- 同じ学校内の教師同士の関係
- 異なる学校の教師同士の関係
- 理想自己から見た関係構築

教師と学校運営者の関係

協働的關係構築を阻害する要因として、(i) 運営者が短期的に入れ替わること、(ii) 運営者が教育面より経営面を重視すること、(iii) 保護者でもある運営者が自分の子どもを中心に学校を見ること、(iv) 運営者と教師の間に権力関係があることがわかった。

同じ学校内の教師同士の関係

協働的關係構築を阻害する要因として、(i) 仕事量の多さ、(ii) 同時間帯の授業、(iii) ミーティングが禁止されていること、(iv) 賃金が低いこと、(v) カリキュラムが整備されていないこと、(vi) 教員が保護者でもあることが特定された。一方、促進する要因としては、(i) 共に過ごす時間があること、(ii) オンラインでコミュニケーションしていること、(iii) 教員研修や教員会議があることが挙げられた。

と で明らかになった阻害要因の多くは、継承語学校に対する公的支援が少ないために経済的・人的資源が非常に限られているという、継承語学校がこれまで直面してきた構造的な問題に起因していることが指摘できる。

異なる学校の教師同士の関係

収集したデータを修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (木下 2003) によって分析し、関係構築のプロセスをモデル化した。教師達はより良い継承語教育を実現するために他校の教師との関係を作りたいと願っていたにもかかわらず、やり取りを開始することや継続することは難しいと感じていた。それは、他に本職があつて多忙であることや、学校からの金銭的援助が少ないこと、学校間の状況が大きく異なっていたためである。継承語を教えることでは生計を立てられないという職業的未確立性や学校への公的支援の不足という継承語学校が抱える構造的な問題は、学校内での関係構築と同様に学校を越えた関係にも影響を与えている。しかし、少数ではあるが学校を越えたやり取りが生まれていることも確認できた。それは、オンラインツールを活用すること、教師が問題意識を共有することによって実現していた。このように、協働的關係が構築される / 構築されないプロセスがわかってきた。

理想自己から見た関係構築

において問題意識をどのように共有しているのかという点をさらに追究することで、教師同士がどのように協働的關係の構築に向かうのかが明らかにできるのではないかと考え、問題意識の共有プロセスについての語りが特にかつた教師 1 名のデータを分析した。その結果、他の教師と自らの教育観やキャリアについて継続的に話す中で、共通の「教師としての理想自己」 (Kubanyiova 2009) が立ち上がり、共有していたことがわかった。この共通の理想自己を実現したいという気持ちを持つことが、協働への意欲につながっていた。

本研究課題の目的は、 においては達成されたと考える。 と は、疎外 / 促進要因の特定という一定の成果は得たが、関係構築のプロセスを明らかにするには至らなかった。この点は、今後の課題である。また、 で示唆されたように、継承語教師の自己意識に焦点を当てた分析を進めることで、本来個人的な性質をもつ関係構築のプロセスをより精緻に捉えることができるだろう。この点も、今後の課題としたい。

<引用文献>

- Kubanyiova, M. (2009). Possible selves in language teacher development. In Z. Dörnyei, & E. Ushioda (Eds.) *Motivation, Language Identity and the L2 Self* (pp.314-332). Bristol, UK: Multilingual Matters.
- Ludanyi, R., Belluz, S., & Rex, H. (2017, Oct. 7). *Teacher retention and professional development* [Conference presentation]. Community-based heritage language schools conference, American University, Washington, DC. United States.
- 木下康仁 (2003) 『グランデッド・セオリー・アプローチの実践：質的研究への誘い』 弘文堂

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 瀬尾悠希子
2. 発表標題 継承日本語教師の語りにみる協働の意味：教師の理想自己に注目して
3. 学会等名 2019 年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Seo
2. 発表標題 Factors that facilitate/hinder teacher collaboration at Japanese heritage language schools: An interview study
3. 学会等名 The Asian Conference on Language Learning 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬尾悠希子
2. 発表標題 継承日本語学校における教員と運営者の関係：教員が働きにくさ / 働きやすさを感じるのはどんなときか
3. 学会等名 異文化間教育学会第40回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬尾悠希子
2. 発表標題 継承日本語学校の教師が他校の教師とつながるプロセスのモデル試案
3. 学会等名 カナダ日本語教育振興会年次大会CAJLE 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----